

地球上で一番大きなネズミは「草原の支配者」



カピバラ

齧歯目テンジクネズミ科カピバラ属 *Hydrochaerus hydrochaeris*

南アメリカのパナマからアルゼンチン北東部が生息地。川のほとりや草原、湿地帯に生息している。食性は植物食で、水中や水辺にあるイネ科の植物などを食す。

本気で走れば時速 50km

露天風呂でのんびり温まっている姿がすっかり有名になったカピバラ。顔の半分以上はあるかと思える大きな鼻、ずんぐりした体に短い足。アンバランスな姿は、見ているだけで癒されますね。その風貌はブタやイノシシに似ていますが、齧歯目に属するネズミの仲間です。齧歯目では、一番大きい動物です。カピバラという名称は、グアラニー語（南アメリカ・インディオのツピ族が使用する言語）からきていて、「草原の支配者」という意味。「支配者」と呼ばれるわりに威圧感がありませんが、草をたくさん食べるイメージから付けられたようです。

おっとりしているように見えますが、野生のカピバラが本気を出すと、時速 50km ほどの速さで走れます。また意外に知られていないのが、泳ぎが得意ということ。前足と後足に小さな水かきがついているのがその証拠。ジャガーなどの天敵から隠れるために、5分以上も潜水ができるといえます。

群れの団結力が強い

カピバラの雄と雌の見分け方は意外と簡単で、雄のカピバラの鼻の上（目と目の間）には「モリージョ」と呼ばれるコブがあります。このモリージョから分泌物を出して、木などにこすりつけ、マーキングをしますが、繁殖期には雌を引き付ける役割もあるといえます。

繁殖期は 4 月から 5 月で、親は岸辺の草むらに子どもを産みます。一回の出産で産むのは 1～7 頭。赤ちゃんは生後 3～4 カ月は草と母乳の両方で育ちます。カピバラの赤ちゃんは、生まれたときから体毛が生えそろうっていて、目も開いており、歯も生えています。体重は 1～1.5kg で、すぐに親のあとを歩いて歩きます。また、彼らは 1 頭の雄と複数の雌で群れを作って生活する一夫多妻制で、子育ても群れの中で協力して行っています。群れの団結力が強いのもカピバラの特徴のひとつで、子どもが天敵に襲われそうになると、大人のカピバラが子どもを囲み、自らが盾となって移動します。

仲睦まじいカピバラ親子の姿は、心をほんわかさせてくれるはず。寒い季節、気持ちよさそうに温泉につかるカピバラ親子を見に行くと温まりたいものですね。